

第 1 回精華町健康総合拠点施設のあり方検討会議 議事録

日時	平成 30 年 11 月 8 日（木）午後 1 時 30 分～
場所	精華町役場 6 階審議会室
出席者	桂委員、藤村委員、内田委員、三沢委員、中西委員、田中委員、地主委員、長谷川委員、中川委員、南委員 以上 10 名 (欠席 森委員)
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 町長挨拶 3 委員紹介 4 会長・副会長の選出 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「健康総合拠点施設整備基本構想」の策定にあたって (2) 「健康総合拠点施設整備基本構想」の構成（案）について (3) 基本構想策定に向けた調査等実施状況について (4) 健康総合拠点施設整備に係る概況と課題について (5) 「健康総合拠点施設整備基本構想」の基本理念の検討について (6) 基本構想策定スケジュールについて (7) 意見交換 6 その他 7 閉会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 精華町健康総合拠点施設のあり方検討会議 設置要綱（資料 1） ○ 精華町健康総合拠点施設のあり方検討会議 委員名簿（資料 2） ○ 基本構想の策定にあたって（資料 3） ○ 「精華町 健康総合拠点施設整備基本構想 構成案」（資料 4） ○ 基本構想策定にあたっての調査等実施状況（資料 5） ○ 健康総合拠点施設整備に係る概況と課題（資料 6） ○ 保健センター・子育て支援センターの概況（各施設の写真）（資料 6 - 1） ○ 基本構想の基本理念について（資料 7） ○ 基本構想策定スケジュール（資料 8）

1 策定委員の委嘱・紹介等	<p>委員の委嘱・紹介が行われた。</p> <p>委員 11 名中、10 名の出席により、過半数を上回っていることから、本委員会は成立。</p> <p>「精華町審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、会議公開、委員名を示して記録を作成公表することについて、了承された。</p>
2 会長・副会長の選出	<p>会長に桂委員、副会長に中川委員が選出された。</p>
3 あいさつ	<p>会長</p> <p>駅から役場まで歩いてきたら自然と汗ばんできた。話を聞くと、わずかなスロープになっているとのことである。健康づくりにおいては、知らず知らずの内に身体を動かしてしまうということも重要である。健康づくりの総合拠点に係る有意義な会議としたい。</p> <p>副会長</p> <p>新祝園の周辺の地域で素朴で静かな場所に長年住んでいる。最近は住宅が増え、</p>

	約 700 戸、2,300 人前後と、町内でも一番大きな自治会となっている。2 年前から自治会連合会の代表を務めている。微力ながら務めさせていただく。
4 協議	議事 (1)「健康総合拠点施設整備基本構想」の策定にあたって (2)「健康総合拠点施設整備基本構想」の構成(案)について
事務局	資料 3～4 について事務局より説明があった。
田中委員	施設整備における建物活用とその立地について 老朽化した建物をリフォームするのか、それとも新築するのか。 また、整備するのであれば立地をどのようにするのか教えていただきたい。
事務局	現在の保健センターは平成 18 年より JA の建物を間借りしている状況である。 老朽化していると同時に、返却する必要がある。町としては、新たな場所での新設を基本として考えている。 立地については、現保健センターが北部地域にあり、不便であるという意見も聞いている。そのような点も踏まえて検討していきたい。
	議事 (3)基本構想策定に向けた調査等実施状況について (4)健康総合拠点施設整備に係る概況と課題について
事務局	資料 5～6-1 について事務局より説明があった。
藤村委員	精華町の出生数について 精華町の出生数はどのくらいなのか。木津川市では増加しているが、笠置町では数年前は出生がなかった。また、今後はどのように推移する見通しなのか。
事務局	多いときは年間 350 人ほどの出生であった。近年は 230 人前後で推移している。 今後も大幅な減少は見込んでいない。 精華町の特徴として、他自治体で生まれ、乳幼児期に転入するケースが多い。
藤村委員	検診時の駐車場スペースの確保について 精華町役場の駐車場の規模はどうなっているのか。
事務局	通常時は 200 台である。検診時には職員用駐車場の一部も開放し、駐車スペースを確保している。
藤村委員	検診の際には駐車スペースは確保されていると考えてよいのか。
事務局	その日の事業が 1 つだけであれば、確保される。ただし、いくつかの事業が重複すると難しい。
長谷川委員	子育て支援センターのスペースについて 子育て支援センターはこまだ保育所の 1 部屋で行っているとのことだが、すべてを行おうとすると、どれくらいのスペースが必要なのか。
事務局	子育て支援センターの事業は拠点は北部だが、出前事業は中部、南部の各公共施設で実施している。 また、本部ですべての事業を行っているわけではなく、ほとんどが地域に出ている。
長谷川委員	今は乳幼児を支援しているということだが、今後はすべての世代を支援したいということか。それならば、どれくらいの面積が必要になるのか。
事務局	具体的にどれくらいの広さが必要になるかは今後の算定となる。

	<p>定期的な事業は常設スペースが必要だが、単発で実施するものは外部で実施している。常時必要なものとしてはサロンスペース、相談スペース、授乳スペースを考えている。そこに追加する機能はどんなものか、今後、検討していく。</p>
事務局	<p>議事 (5)「健康総合拠点施設整備基本構想」の基本理念の検討について</p> <p>資料 7 について事務局より説明があった。</p>
田中委員	<p>キャッチフレーズについて</p> <p>各計画ごとに基本理念、キャッチフレーズが掲げられており、キャッチフレーズが多すぎると、住民は迷うのではないかと。可能であれば、他の計画と統一してもよいのではないかと。そうすれば、覚えやすく、住民に浸透するキャッチフレーズにしやすいのでは。</p>
事務局	<p>計画ごとに基本理念を掲げている。本基本構想においても、関連計画との整合をとる必要がある。構想としては、他の上位計画の理念を織り込んだ独自の理念が必要だと考えている。</p>
副会長 事務局	<p>キャッチフレーズはいつ、どのように活用し、広めていくのか。基本構想、基本計画、実施計画、設計となっていく。キャッチフレーズは建物完成までの根底の考え方を理念として表すものである。建築後は、その理念を実現していくための個別の施策、事業を推進していく。このように理念を使っていくことを前提として考えている。</p>
副会長	<p>住民がキャッチフレーズに馴染む必要がある。小学校 3 年生が「〇〇センター」とすぐにわかるようなものが必要ではないかと。そして、すべての世代が集える場所に合致する言葉を選ぶ必要がある。</p>
地主委員	<p>子育てで悩む親とセンターへの機能集約について</p> <p>そもそも、新施設は保健センター、子育て支援センター、町役場の 3 つを総合的に一箇所にまとめるということが出発点であるならば、利用する中心層は子育て中の母親・父親の中でも、子育てで困っている方々になる。そのことを踏まえると、センターを集約することで使い勝手はどうなるのかを懸念している。保健センターは発達障害の方などが使用するが、子育て支援センターでは対象の幅が広がる。特定健診ではさらに広がる。</p> <p>しかし、子育てに悩む親は繊細であり、どんな人に話を聞いてもらえるのか、他にどんな人がいるのか、見られるのか見られないのか、発達障害があるからといって区別されたくないなど、さまざまな思いを抱えている。</p> <p>3 つの機能を集約すると、さまざまな人たちが出入りすることになる。そのことについて、子育てに悩む親に話をしっかりと聞く必要がある。つまり、センターの機能を合わせることによるメリット、デメリットの聞き取りが必要ではないかと。</p> <p>新施設というと、交流スペースへの期待感が膨らみがちだが、子育てで困っている親子にとって施設はどのようなものか、当事者の声を拾ってほしい。</p> <p>また、府内で子育て、母子保健に従事する保健師がすべてこの施設に移転することになるのか。</p>
事務局	<p>子育てで悩む親の意見などについては、追加で整理して調査等の対応をしていきたい。</p> <p>職員の配置までは現時点では考えていない。体制等の議論も含めて、今後考えていく。現段階では全員が保健センターに行くとは考えていない。</p>

	<p>特定健診について</p>
藤村委員	府下の特定健診の受診者のうち、団塊の世代が 260 万人である。出生者は 90 万人である。府内の保健センターにおいては、特定健診の実施率上昇を目指しており、母子保健よりも特定健診がメインとなっている。そのため、実際の新施設は特定健診の受診率を高めるための場所になるのではないかと。
事務局	現在の保健センターで実施しているのは主に母子保健である。構想として考えているのは、特定健診も含めて、すべての世代に利用していただける拠点を目指している。
三沢委員	また、精華町は平成 25 年から健康づくり運動を進めており、その機運を高めるための拠点にもしていきたいと考えている。
	特定健診に関しては、地域の状況によって個別健診を主にやっているところもある。乳幼児健診については、疾患のスクリーニングだけでなく、様々なことが求められている。
	母子健康包括支援センターに関しては、母子手帳を交付する時が妊婦への最初の接点になるので、そこから関係を持って、妊娠期からの切れ目のない支援につなげるよう全国的に取組が進んでいる。子育てで苦勞している親とそうでない親が区別できるのでなく、中間あたりの親もいるので、それも踏まえて対応が必要である。
	先行例として、保健センターと子ども発達支援センターを子育て拠点の建物に作り、フロアを分けているところもある。
	<p>議事 (6)基本構想策定スケジュールについて</p>
事務局	資料 8 について事務局より説明があった。
	(特に意見なし)
	<p>議事 (7)意見交換</p>
会長	意見交換として、各委員より意見を伺う。
藤村委員	駅に近いと良い。現保健センターは祝園駅までバスで来て、そこから保健センターに行くことの負担を考えてもらいたい。
事務局	精華町のフッ化物塗布の実施率はどれくらいなのか。
	2 歳児検診受診時にフッ化物塗布を実施している。実施率は 90% 近くである。
内田委員	また、せいか祭りでも希望者に実施している。
	歯科検診でしか住民との関わりがない。今は健診事業のみとなっている。歯科医師会に対して、住民から意見があれば、新しい施設でも対応できるようにしていきたい。
三沢委員	災害時の危機管理の観点から考えると、妊婦や乳幼児は災害弱者になってくる。
	行き慣れた場所に安心して行けることが住民の安心につながるのと、そのような点も踏まえて新施設について検討してもらいたい。
中西委員	乳幼児健診で離乳食を教えているが、現状の保健センターは老朽化している。
	役場の近くに作ってもらえれば、役場もあり、スーパーもあり、集まりやすく、行きやすい。
田中委員	駅に近いところがよい。南部の人も行ける場所にしてほしい。
	子育て中の方の利用が中心となるが、高齢の方がどうやって来られるかも考える必要がある。
地主委員	センターという名前がつく建物は多い。一箇所ではなく、さまざまな場所で相

長谷川委員	<p>談できるのがよい。</p> <p>さまざまな子どもがいるが、お互いに嫌な思いをすることがなく通える場所になることが望ましい。マイナスの部分をもどのように回避したらよいか。数割しかいないと思うが、その数割の親子を大事にしてほしい。</p>
南委員	<p>駐車場についても並行して考える必要がある。</p> <p>社会福祉協議会としても、検討会で協力できるところはしていきたい。</p> <p>あらゆる世代のヘルスプロモーションをお願いしたい。場所をセンターにするのか、機能をセンターにするのか。むくのき、かしのき苑でもヘルスプロモーションを行っている。既存の施設もうまく活用しながら、新施設の全体の機能を考えてもらいたい。</p>
会長	<p>健康づくりは高齢者まで続く、ライフコース全体を通して、考える必要がある。そのスタートは母親と子どもである。この拠点がうまく活用され、ライフコースを通じたヘルスプロモーションへとつなげてもらいたい。</p>
<p>次回委員会の日程について</p>	
<p>第2回策定委員会</p> <p>日時 平成30年12月18日(火)午後1時30分～</p> <p>場所 精華町役場6階審議会室</p> <p>事項 構想案について</p>	